

水田関係新技術の紹介 ～草刈りに最新技術を！～

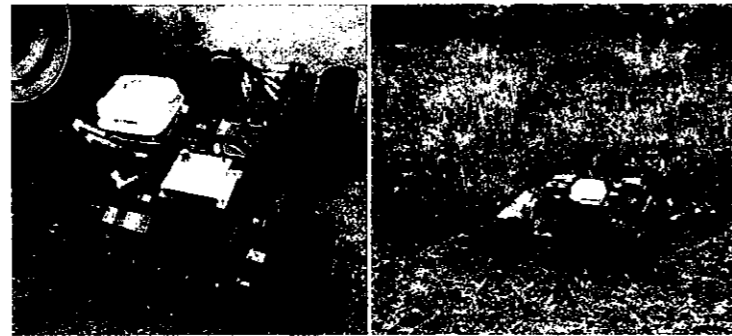
皆さん、田んぼの畦草や土手の草刈りに苦労されていませんか？実は大分県の畦畔率（農地面積に対する畦の部分の割合）は8.1%と全国平均の5.6%を大きく上回り、九州内では最も畦畔率の大きい県なんです！夏の暑い時期に草を刈る労働の負担も問題ですが、中山間地域の水稲作では総労働時間の2割以上を草刈り作業が占めるなど経営面でも大きな負担となります。「草はこまめに刈りてえけど、こげえ暑い中に誰も出ちきちくれんわあ！」とお嘆きの方（地区）、人の手に替わって草を管理してくれる新型機械や有望資材を試してみませんか！

<新型機械その1 リモコン式自走草刈機>

リモコンで操作する自走型の草刈機（平たく言えばラジコン）です。40°までの斜度（意外と急勾配です）に対応しており、300㎡の斜面の草を30分で刈り終わられる性能があります。草刈りの作業時間短縮や人手不足の解消が期待されます。

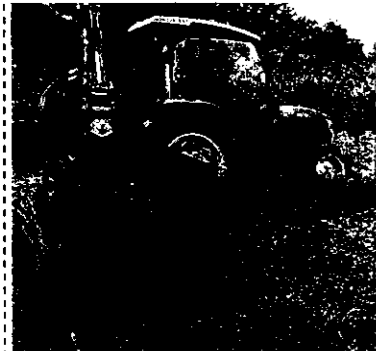
○主な特徴（S社製）

- ・定価 約135万円（税別）
- ・エンジン ガソリンエンジン（11.8馬力）
- ・草刈り部 フリーハンマー刃・刈幅600mm
- ・走行性能 前後進刈り対応、その場旋回可能
- ・寸法・重量 1,200mm×1,020mm×700mm 200kg



リモコン式自走草刈機

<新型機械その2 トラクタ用アーム式草刈り機>



トラクタ用アーム式草刈り機

トラクターのPTOで駆動する方式のハンマーナイフモアです。新機構のナイフドラムにより高速（800～4,500㎡/時間）かつきれいな草刈を実現しています。アームが長くモア部分の角度も操作できるため、様々な角度の法面に対応できます。農道沿いの長い畦畔の作業等にお勧めです。

○主な特徴（S社製の場合）

型式	適用	価格(税込)	草刈り部	推奨適用トラクタ質量
ZH-34	3.4mリーチ	¥1,836,000	刈幅900m	1,700kg～
ZH-44	4.4mリーチ	¥2,138,400	刈高25,45mm(2段階調節)	2,300kg～

<新資材 センチピードグラス・抑草シートなど>

○センチピードグラス：地面を覆って他の草の発生を抑制します。水稲の病害虫の発生源にならず水があると先に伸びない性質があるため水田の畦畔に最適とされています。施工方法は種子の吹きつけ～苗の栽植～マット張りとなります。種子の吹きつけの施工費は種子の価格等によって変動しますが400円/㎡が目安です。

○抑草シート：畦畔に張り付けるシートで雑草の伸びを抑えます。光を通すタイプでは雑草を生かしたまま抑えるので畦が崩れる心配がありません。電柵の下など部分的な施工も効果的です。

「草刈りはもうせればい！」とお悩みの方（地区）、最新資材の導入を検討されてはいかがでしょうか？

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落営農・水田班

監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL：0973-22-2585 FAX：0973-23-2219

集落営農かわら版

平成30年6月15日 VOL. 30
大分県西部振興局農山村振興部
大分県集落営農推進西部支部

部長挨拶

こんにちは。本年4月から大分県西部振興局農山村振興部長を務めます高村と申します。西部振興局は3年ぶり10年目の勤務になります。引き続きよろしくお願いたします。

さて、いよいよ本年度から国による米の生産数量目標の提示が廃止され、併せて、生産調整を達成した農家に支払われていた10㍍当たり7,500円の米に対する交付金がなくなりました。米価の低迷が危惧される中、今後の農業所得を確保していくためには、米だけに頼った生産構造の転換が必要と考えています。

県では、稲作から高収益な園芸作物への転換に向け、平成34年度までに500haを目標として水田の畑地化を展開しています。そのためには、地域の意向を集約しながら畑地化する水田を確保することが重要で、各種奨励金の充実や農地中間管理機構による農地の先行借受けなどにより、既存農家の規模拡大や新規就農者の確保を図ります。

米・麦・大豆を中心に経営している集落営農組織が経営力を強化するうえでも、園芸品目の導入が有効と考えています。新たに取り組む品目の技術的な不安などに対しましては、是非農業普及指導員をご活用願います。

一方、米生産を続ける場合にあっても低コスト化は必須であり、農地の集積による規模拡大や乾田直播栽培、業務用米の生産拡大などが必要です。また、食味ランキングで2年連続特Aを獲得した「ひとめぼれ」のように、マーケットが求める良食味米の産地づくりも必要と考えております。

水田農業が大きな転換期を迎えるなか、集落営農組織の皆様方の知恵と力をお借りしながら、農業が抱える課題の解決に向け取り組みますので、今後ともよろしくお願いたします。

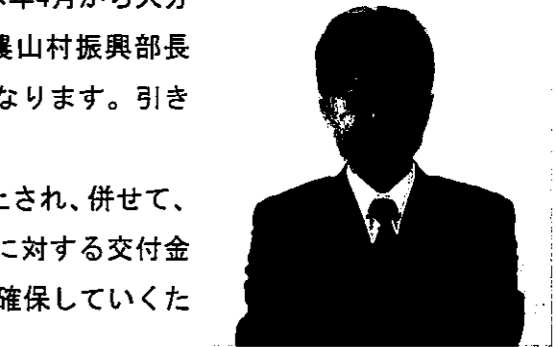
新しい集落営農組織のご紹介

杉河内営農組合（平成30年1月31日 設立総会 平野一義組合長 31戸）

日田市天瀬町杉河内集落では中山間地域等直接支払制度に取り組んでいます。現在の取り組みに基づいた活動を継続しながら、高齢化や担い手不足といった農業を取り巻く問題に対応し、効率的な農業生産を図ることを目的として、杉河内営農組合が設立されました。日田市で36番目、西部管内では69番目の集落営農組織となりました。杉河内営農組合では、農作業受託、農業機械（トラクター、畦塗り機）の共同利用、地域資源保全作業等に取り組んでいく予定です。

現在、杉河内集落では将来の人と農地の計画書である「人・農地プラン」の策定に向け、話し合いが進められています。今後、集落内の中心的な担い手として杉河内営農組合が活躍していくことが期待されます。また、農地の効率的な利用のために、基盤整備事業に関する勉強会も行っています。

今後、杉河内営農組合のさらなる発展が期待されます。



シリーズ～新たな取り組みへのチャレンジ～

地域農業を守る新たな仕組みづくりにチャレンジしています！ ～浦河内農地保全組合(玖珠町)の活動紹介～

玖珠町浦河内地区では6つの集落営農組織がそれぞれの地区の水田農業の担い手として活動してきました。しかし、中山間地域のほ場条件の悪さに加え近年の米価の下落傾向も影響して厳しい経営が続いており、計画的な農業機械の更新が困難な状態となりました。そこでH29.1.23に6組織を構成員とした「浦河内地区農地保全組合」が設立され、「浦河内地区の農地を守り、地域の農業を発展させる」という理念のもと、組織間連携による広域の農作業受託体制が確立されました。



浦河内農地保全組合の役員会

しかし各地では高齢化が進んでおり、農地の委託要望が増えていくことが予想される中で、組合の役員やオペレーターの後継者確保が大きな課題として残っていました。そこで、5年後10年後の地域の農業のあり方を検討する取組の一環として、「地域の営農に関するアンケート調査」が実施されました。この調査は振興局と農地中間管理機構が企画を行い、保全組合や玖珠町役場、農業委員会等関係機関の協力の下実施され、H30.1.9には調査結果の報告会が行われました。調査結果では5年後10年後先には離農の見通しとの回答は4割近くにのぼり、担い手不在となりうる農地を色分けした地図が示された際は驚きの声があがりました。会場からは調査結果に対して、「組織がない地域はどうするのか?」「条件の悪いほ場は栽培続けるのは難しい」「組織間の連携や合併も必要」との声が上がりました。

このアンケートは地域の発展を目的として実施しています。調査結果は関係機関等に提供され、地域の発展に活用させていただきます。個人情報の取り扱いについては、調査票の裏面に記載してあります。

〒766-0201 玖珠町 農地中間管理機構
TEL 0973-22-2565

このアンケートは、地域の発展を目的として実施しています。調査結果は関係機関等に提供され、地域の発展に活用させていただきます。個人情報の取り扱いについては、調査票の裏面に記載してあります。

調査票の記入方法

1. 調査票の裏面に記入してください。

2. 調査票の裏面に記入してください。

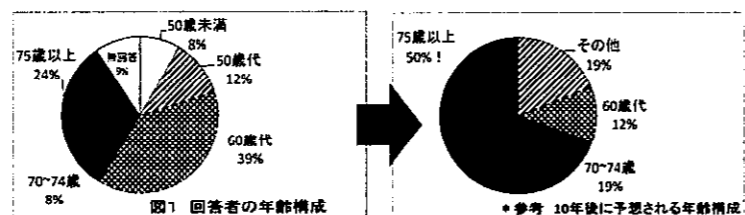
3. 調査票の裏面に記入してください。

4. 調査票の裏面に記入してください。

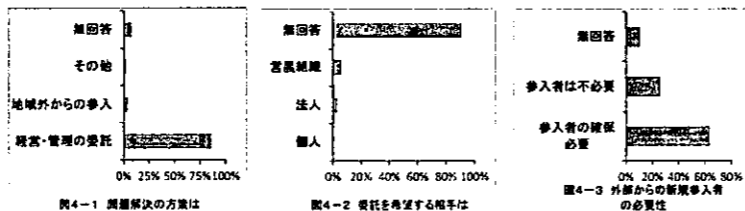
配布されたアンケート用紙

今回の結果はそれぞれの組織に持ち帰られ、今後各組織で具体的な対策等の検討が行われる予定です。組合役員からは「5年後10年後は組合が栽培の中心となっている」「日当たりのよい地域は野菜や大豆への転換も考えられる」といった前向きな考えも聞かれました。

先日H30.5.16には地区内の組織の先陣を切って(農)わいわい元気村の総会内でアンケート結果の報告が行われました。今回の調査をきっかけに地域を守るためのより深い連携が進むことが期待されます。



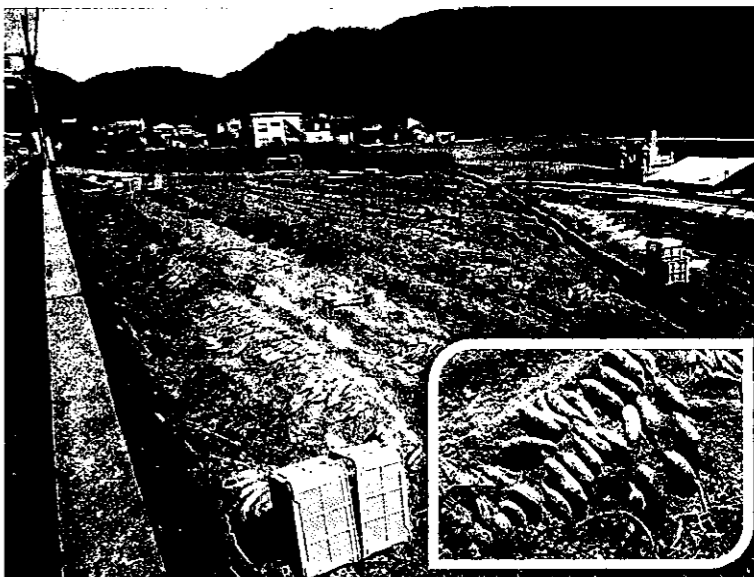
(4)問題解決のための対策(問題解決にはどういった率が必要ですか? 誰に管理を依頼しますか? 参入者が必須ですか?)



アンケート結果(一部抜粋)

新たな園芸品目の導入にチャレンジしています！ ～(農)大肥郷ふるさと農業振興会(日田市)の活動紹介～

日田市にある(農)大肥郷ふるさと農業振興会は米、麦、大豆を基幹作物として栽培していますが、法人として積極的な園芸品目の導入も行っています。ジャガイモ、ニンジン、サトイモ、キャベツ、タマネギなどを作付けしており、学校給食に供出したり、直売所での販売を行っています。昨年からは大分県ブランド「甘太くん」用としてサツマイモの生産も始めました。



サツマイモの収穫風景

同法人の原田代表は「米を巡る状況は厳しさを増しており、販売価格の低迷や直接支払交付金の廃止など、米に頼った経営を続けていくのは難しい。『米依存からの脱却』を意識しながら、収益性の高い園芸品目の導入を進めていきたい。」と力強く話します。

水田転換畑での作付けとなるため排水性の向上や品目に応じた土づくり、また専用機械の必要性など課題は数多くありますが、新たな園芸品目へチャレンジすることで、さらなる経営の多角化を目指しています。

うまい米づくりにチャレンジしています！ ～玖珠九重集落営農組織連絡協議会の活動紹介～

玖珠郡の29組織で構成された「玖珠九重集落営農組織連絡協議会」では、「うまい米づくり」などをテーマとした活動を行っています。

他の地域と同様に、玖珠郡内の組織の多くが米生産に係る収入の低迷に悩まされています。そのようななか、玖珠郡の米は、(一財)日本穀物検定協会が公表する食味ランキングにて、2年連続で最高ランクの特Aを獲得するなど、米のおいしい地域として知られつつあるところです。

協議会では、経営の柱となる米生産に力を入れるべく、昨年に引き続き食味コンクールを実施しました。機械による採点と食味審査を経て、合計12組織を表彰しました。玖珠郡の米が高付加価値販売できるように、協議会としても品質と食味の向上に向けて取組を強化し、産地全体の底上げと知名度定着を図っていきます。



入賞組織の表彰

～最優秀賞を受賞した組織～

- コシヒカリ部門 農事組合法人 くりばる
- ひとめぼれ部門 早杉営農組合
- ヒノヒカリ部門 農事組合法人 長小野チャレンジ村
- その他品種部門 農事組合法人 こと